

◎ 地域入門(全学必修・KBUアイデンティティ科目)

地域志向ー地域で学び、地域に役立つ視点をもつ



全学必修科目「地域入門」は、地域志向に関する学習の動機づけ、地域と関わる意義そのものや地域について考えることの重要性を理解することを目的としています。

開講3年目の今年度の新たな試みとして、従来の行政担当者に加え、地元中小企業の経営者やNPOなど地域での事業活動に従事している社会人をゲスト講師として招聘しました。連携自治体の<宇治市><伏見区>を題材に、学生も交えたフォーラム形式でディスカッションを行い、地元企業の実態に触れるだけでなく地域で「働く」イメージを受講生に提供することが出来ました。

全8回の授業を通し、地域で活動する上級生や、学部の特長性を活かして地域で従事する卒業生の話聞く機会から、受講生たちは多角的な視点で地域を理解し、自らの地域での活動やキャリアデザインについて志向するきっかけとなりました。

◎ フォーラム「宇治の観光を考える」

宇治市観光振興計画後期アクションプラン策定に向けて、市民の声を求めました。



12月9日(土)、地域志向協働研究「宇治市における観光の質の向上方策検討研究ーインバウンド対応の質的向上を中心に」と宇治市が共催し、フォーラム「宇治の観光を考える」を開催しました。

平成25年に策定された「宇治市観光振興計画」に基づき実施してきた取組やその成果、課題をまとめると共に、現在進める後期アクションプランの策定について、行政関係者、観光関係者、地域で活動を行う市民、そして本学教員によるディスカッションを行いました。

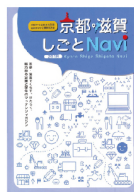
フォーラムには、100名もの聴講者が集まり、宇治市は会場での意見交換と合わせて、参加者からパブリックコメントを求めました。

◎ 本学学生も編集作業に携わり、『京都・滋賀しごとNavi』が発行されました

中小企業の魅力に触れ、その魅力を記事にまとめました。



本学の授業「地域公共政策士総合演習」「グローバル人材PBL演習」では、京都中小企業家同友会によって実施された求人活動の実施実態を、「観察」「ヒアリング」「アンケート分析」などの手法でも調査し、得られたデータをSWOT分析などビジネスの現場で用いられる方法で整理し、客観的根拠にもとづいた実施実態の評価と改善策の提案を行いました。



授業の一環として、京都中小企業家同友会・滋賀県中小企業家同友会が発行する

『京都・滋賀しごとNavi2018』の編集作業に携わりました。経営者インタビューや社会人と学生の座談会を実施し、働くことの意味や企業理念、中小企業で働くメリットなどを同い記事にまとめました。この経験は、中小企業の魅力に触れる機会となりました。

◎ 久御山町・京都文教大学・京都文教短期大学との包括連携協定を締結

まちづくり、教育・文化、子育て支援、産業・観光の振興、人材育成など
幅広い分野で相互協力していきます。



2月6日(火)に、京都文教大学、京都文教短期大学と久御山町は、地域振興や人材育成などで連携、協力する包括協定を締結しました。この日、久御山町役場では、信貴康孝久御山町長、京都文教大学平岡学長、京都文教短期大学安本学長の3者による調印式が行われました。今後、この協定を契機に、まちづくりや住民参画・協働の推進、健康・福祉の増進、教育・文化・スポーツ・産業・観光の振興、子育て支援及び臨床心理、人材育成など、幅広い分野において相互に協力することによって、それぞれの活動の充実を図るとともに、地域社会の発展に寄与することを目指します。

京都文教大学 地域協働研究教育センター

ニュースレター **ともいき** TOMOIKI vol.13
2018年2月発行

『京都府南部地域 ともいき(共生)キャンパス』でのさまざまな活動をお伝えします。



「高・大・地・産」接続を通じた地域人材の育成と定着促進を目指して 京都文教ともいきパートナーズ

2017年度から京都文教ともいきパートナーズの活動が始まり、皆様のご協力を得ながら様々な活動を展開しています。今年度は、インターンシップの受け入れ、企業見学、意見交換会、交流会、メンタルヘルスセミナーを開催いたしました。2018年度は、更に深く連携を取り、若者の地元定着や地域、事業所の発展を目指して取組みます。

<地元企業／事業所・経済団体・行政機関とのネットワークづくり>



<2017年度の取組>

日程	内容
	京都文教大学提供プログラム=■ パートナーズ協力プログラム=■ 京都文教ともいきパートナーズ協働プログラム=■
6月21日(水)	■キャリアミーティング (イノブンク御山店)
7月6日(木)	■企業向け研修「メンタルヘルスセミナー」
7月20日(水)	■京都文教ともいきパートナーズ意見交換会 (P2で詳しく紹介しています)
8~9月	■地域インターンシップ (P3~4で詳しく紹介しています)
9月6日(水)	■市役所見学バスツアー (城陽市役所)
9月14日(木)	■「勝ち残る」企業の現場見学バスツアー ((株)クロスエフェクト、(株)エフケイ)
10月17日(火)	■企業訪問 ((株)西山ケミックス)
11月8日(水)	■企業向け研修「職場のメンタルヘルスを考える」
11月15日(水)	■KBUプレジデントセミナー (P5で詳しく紹介しています)
11月16日(木)	■京都文教ともいきパートナーズ意見交換会
11月29日(水)	■企業訪問 (HILLTOP (株)、(株)神村製作所)
11月30日(木)	■「京都府中小企業家同友会伏見支部例会「魅力ある企業と人材の発見!!」」参加
12月6日(水)	■KBUプレジデントセミナー
1月13日(土)	■「京都の企業2社で行う「面接官体験&模擬グループディスカッション」((株)グラフィック、ワタキューセイモア(株))
1月17日(水)	■地域で働く魅力発信セミナー (宇治市役所)
2月13日(火)	■「メーカー&商社の現場見学」(コタ(株)、(株)エージェンシアシスト)

地域インターンシップを受入

株式会社アースワーク (宇治市、京都市伏見区)

代表取締役 宮城智之氏

学生が来て頂けるだけで、社内は明るく活発になります。そして、仕事に対する取組みも、後輩が見ているという感覚があるためか、社員の仕事に向かう姿勢の変化が、手に取って分かります。あつという間の10日間なので、最終日は寂しくもありますが、また来年受け入れをしたいという、従業員たちの願いが、毎年醸成されます。

企業見学を受入

株式会社エフケイ (宇治田原町)

取締役常務執行役員 織田孝志氏

9月14日(木)、学生6名、職員3名の方に企業見学に来ていただきました。会社説明、社内見学の後、3名ずつ3グループに分かれて若手社員との交流会(座談会)を行いました。若手社員たちも改めて自分の就活や入社動機、その後の会社員としての生活を振り返ることにより勉強になったようです。来社いただきありがとうございました。

企業セミナーを開催

京都文教大学 産業メンタルヘルス研究所

所長 森崎美奈子

セミナーでは、「もろくて傷つきやすい若年労働者や過重労働で心身疲弊した」ケースが職場で目立ち始めている現状を伝え、「メンタルヘルスの不調は深刻な社会問題で、経営者、管理職は労務管理の一環として取組む視点が大切で、今、問われるのは従業員視点での人材マネジメントの復活である」とお伝えしました。また、産業保健の最近のトピックスと企業が取組むメンタルヘルス対策を紹介し、職場のコミュニケーションの重要性を再考しました。

活動報告 1 <COC+>

京都文教ともいきパートナーズ 意見交換会

① テーマ「若者の地元定着」

2017年7月20日(木)に実施しました。

学外から行政、経済団体、企業の関係者40名、学内から教職員15名が参加して、第1回意見交換会を7月に開催しました。グループディスカッションでそれぞれの立場から出た課題を共有した後、8つのグループから解決提案策が報告されました。授業での取組充実、インターンシップ、学生と企業が話す場づくり、離職者の再チャレンジ、地域活動、就職支援など多彩な内容で、今後の取組みに大いに参考となる意見が挙がりました。

② テーマ「インターンシップの可能性」

2017年11月16日(木)に実施しました。

第2回の意見交換会は、第1回意見交換会で多くの意見を頂いた「インターンシップ」をテーマに開催しました。参加者は、学外から30名、学内から学生も含む24名となりました。会の前半では、本学「地域インターンシップ」受入先のむかいま病院の岩城先生からの事例報告や実習を終えた学生が経験から学んだことのプレゼンテーションがあり、参加事業所の皆様から高い関心が寄せられました。後半のグループディスカッションでは、インターンシップの様々な期間や形態についてや事業所連携型のインターンシップ、初めてのインターンシップ受入れについて議論が交わされました。これらの内容は、次年度の地域インターンシップ実施にあたり参考意見として取り入れられています。

意見交換会参加事業所からの声

宇治市

市民環境部産業推進課 課長
藤井健氏



宇治市内の多くの中小企業では人材確保を経営課題に挙げられていることから、宇治市では、企業の採用活動への支援を進めています。意見交換会では、大学、事業者、経済団体、学生、行政など様々な立場からの意見があり、ここで見てきた若者の地元定着に向けた課題を参考に、事業者と学生双方にとって効果的な中小企業人材確保支援・就労支援策を検討していきます。

宇治商工会議所

商工課 課長
釜山昌之氏



「若者の地元定着」や「地域インターンシップ」をテーマとした議論は、参加者にとって気づきの多い場になったと思います。現在、少子化や人口の都心部への集中等を背景に、多くの事業所で人材不足が切実な経営課題となっています。そのため、学生と地元事業所とのマッチングに対する関心は高く、商工会議所としても今後の展開に期待しています。

城陽市

理事
荒木正人氏



「ともいきパートナーズ意見交換会」は、非常にユニークな産官学協働へのアプローチです。大学・行政・事業所等からの参加者が各々の立場から活発な議論を展開され、実りある異業種交流の場となっています。この事業が新たな産官学協働のモデルとして、全国に発信されることを期待しております。

株式会社 健幸プラス

代表取締役
大演育恵氏



地域インターンシップ受け入れ企業として参加しました。様々な立場の方々との意見交換をして、インターンシップは、受入企業側でも学生に働くという事を与えるだけではなく、学生の視点や価値が現場社員の人材教育につながる事が分かりました。よい会社づくりに地域インターンシップは、価値あるものだと思えました。



地域インターンシップ

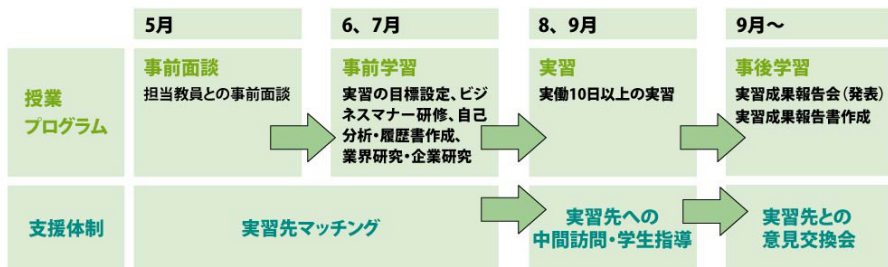
<2年次生以上選択必修・共通科目>

本学独自のインターンシップとして、宇治市・京都市伏見区をはじめ京都府南部地域を中心とした企業・自治体・NPO等を実習先とする地域密着型プログラムです。自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことで、就業意識・職業意識を養い、自立性・独創性・責任感のある人材育成を目的としています。

今年度、地域インターンシップは、正課として2年目を迎え、両学部の2・3年次生、計42名の学生が参加しました。2ヶ月にわたる事前研修を経て、夏期休暇期間中、32の研修先企業・事業所に実習先としてお世話になりました(下記参照)。

実習先につきましては、京都中小企業家同友会の伏見支部、宇治支部のご協力のもと、昨年度以上に実習先を充実、拡大することが出来ました。また、非常に広範な業種にも参画頂いたことで、昨年度以上に、より多様な地域社会の実状を学ぶことにつながっています。

半年以上にわたる「地域インターンシップ」という経験から、学生たちは大きく成長を実感しています。経験を「力」に変えて、将来に立ち向かっていくことでしよう。



2017年度 インターンシップ受入先 (17業種/32事業所)

【自治体】宇治市/【自治体】京都市伏見区/【自治体】城陽市/【自治体】城陽市教育委員会/【団体】宇治商工会議所/【団体】公益社団法人宇治市観光協会/【団体】社会福祉法人宇治市社会福祉協議会/【団体】公益社団法人京都府公園公社/【観光施設】社団法人平等院/【運輸】西日本旅客鉄道株式会社/【旅行】近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社/【商社】ワタキューセイモア株式会社/【商社】株式会社協栄産業/【広告】株式会社アースワーク/【小売・デザイン】株式会社イノブ/【情報・通信・IT】シモンビ株式会社/【医療】医療法人健幸会 むかいしま病院/【運輸】株式会社宇治吉田運送/【建設】玉井建設株式会社/【建設】株式会社富岡工務店/【不動産】株式会社スリーシー/【製菓・小売】株式会社若井製菓/【小売】有限会社サワキ/【サービス】株式会社LITALICO/【その他】びあびあコミュニティサポート合同会社 ※敬称略



実習の様子



地域協働研究教育センター専任研究員：石田浩基

2017年度 地域インターンシップを振り返って



事前研修の様子



実習成果報告会の様子

今年度の地域インターンシップは受講生が42名ということで、昨年度の倍以上の規模での開講となりました。程度の差こそありますが、その多くが就職活動を意識し、就業体験や職場体験を求めて、約半年間のプログラムに臨んでいます。

6月のプログラム開始当初は、自分の想いや考えを具体化し、言葉や文字にして人に伝えることに悪戦苦闘していた学生が、10月の実習成果報告会では、それぞれの学びや成長についての発表を見事に成し遂げるようになりました。

実習受入先の皆様からは、学生が劇的に変わる瞬間に立ち会うことのできた喜びや、他の受入先の話聞くことによる気づきがあるなど、地域インターンシップに参加したことのでられる価値についても意見を伺うことができ、今後はそのような価値観をより多くの皆様と共有していく所存です。

本学では「京都文教ともいきパートナーズ」として、インターンシップや会社見学などを通じて学生の育成に協力して頂ける企業や事業所等とのネットワークを構築し、交流を図っています。地域インターンシップとともども、より多くの企業・事業所の皆様に関心を持って頂ければ有難く、引き続きこれらの充実尽力に尽力して参りますので、ご理解ご協力の程何卒お願い申し上げます。

2017年度 地域インターンシップ実習生の声

今年度、地域インターンシップに参加した学生たちから、実習を通して一番身についた「力」について話を聞きました。

吉田 英樹 総合社会学部総合社会学科・3年次

実習先 京都市伏見区役所 地域力推進室



自己肯定力

業務を行うなかで、自分自身で不足している力を客観的に捉えることが出来ました。また、逆に自分では気付かなかった力を、自分が希望する公務員の方から評価頂く機会もあり、自信に繋がりました。今回の経験を強みに、公務員試験に挑戦します。

渡邊 綾乃 総合社会学部総合社会学科・2年次

実習先 城陽市 市民活動支援課 男女共同参画支援センター ばれっとJOYO



女子力

「デートDV防止」のキャンペーンの企画を中心に実習しました。沢山の女性スタッフの方々が活躍している職場で、言葉遣いや所作など、社会人としてのビジネスマナーやホスピタリティを直に学ぶ機会に恵まれました。まずは真似をすることから、普段の「心がけ」に繋がったように思います。

渡邊 洋平 総合社会学部総合社会学科・2年次

実習先 公益社団法人 宇治市観光協会



伝える力

わからないことや不安なことはすぐに聞いて確認するように徹底しました。多言語対応も必要な職場で、ジェスチャーを使ったり地図に書き込みながら伝える職員の方の姿にホスピタリティを感じました。相手が何を必要としているのかを見極めて相手に適した「伝え方」を身に付けていきたいです。

中村 太海 総合社会学部総合社会学科・2年次

実習先 西日本旅客鉄道株式会社 宇治駅



共→協働する力

多くの社員の方とお話が出来たことが貴重な経験です。一番学んだことは「共有の大切さ」。立場を超えての情報共有や業務分担の徹底が、結果として組織として臨機応変な対応に繋がっていることを知りました。学生プロジェクトの代表を務めることもあり、今後の学生生活に活かしていきたいです。

澤田 彩美 総合社会学部総合社会学科・3年次

実習先 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社 京都駅前



現場で対応する力

就職活動を前に、希望する旅行業界の「現場」を知りたいと思い参加しました。店頭でのお客対応では、知識不足から失敗を繰り返していましたが、回数を重ねるなかで、お客様のニーズをどう的確に引き出すか、徐々に「掴む」ことが出来るようになりました。

岡松 亜里紗 臨床心理学部臨床心理学科・3年次

実習先 株式会社イノブ 久御山店



一步を踏み出す力

内向的な自分を変えたくてインターンシップに挑戦しました。実習中は、せっかくの機会を無駄にしない!と困っているお客様へのお声掛けなど、自分で自分を変えようとする力が身につきました。現在は、お世話になった同店にて、アルバイトとして勤務しています。

石岡 優風 臨床心理学部臨床心理学科・2年次

実習先 医療法人健幸会 むかいしま病院



受け入れる力

病院での実習で、見学することしかできない自分に唯一できたことは、患者さんの話を聞くことでした。視線を合わせ、大きく頷く。患者さんの不安が少しでも軽減されるような接し方、聴き方を職員さんは熟知しておられ、ほんの少しの工夫で感じ方も変わり、私もそれを実践の中で学ぶことができました。

栗栖 育実 臨床心理学部臨床心理学科・2年次

実習先 株式会社LITALICO LITALICOワークス四条河原町



人を理解する力

利用者の方々のサポートをする中で、相手かどのように思っているか観察を続け、普段の生活でも相手の視点に置き換えて考えられるようになりました。私にとって、地域インターンシップは2017年一番の出来事。今以上の成長を目指して、次の目標に向かって頑張ります。



京都府山城広域振興局によるレクチャー

プレゼントセミナーの様子

行政型寄付講座

<連携先：京都府山城広域振興局>

現場実践科目「プロジェクト科目(地域)」に、寄付講座として、「公務員と考える未来のキャリア」クラスを設置しました(全15回)。本クラスでは、地域の経営者に協力を得てプレゼントセミナーを2回開催し、学生に中小企業の働き方や在り方が変わる機会を設けました。学生は、セミナーを企画運営の中で、キャリアとは何か、ということや集客・広報の重要性なども学びました。2017年度・秋学期プロジェクト科目(地域・テーマ)「合同成果発表会」では、本講座が最優秀賞に選ばれました。

連携先の声

京都府山城広域振興局
農林商工部商工労働観光室

主事 追矢悠策氏

学生の皆さんお疲れ様でした。京都府山城広域振興局の寄付講座でもあるプレゼントセミナーは、今年度、学生が主体的に企画運営することを目標に開催されました。

地元のオンリーワン企業への訪問やセミナーの企画、地域中小企業経営者へのインタビューなどを通じて、学生さんには、ブランド力のある大企業にも負けない中小企業の魅力を感じていただきました。

本セミナーの成果を、今後に活かしてください。



履修学生の声



臨床心理学部臨床心理学科・2年次

小林恭也

会社見学を2回行い、それを受けて2回のプレゼントセミナーを開催しました。会社見学から1週間という短い時間の中で、自分で考え、見聞きしたことを情報に換えて伝えることに大変さと面白さを感じました。

登壇頂いた社長の方々は、学生にもフランクに接してください、とても話がやすかったです。会社見学や社長の話から学ぶことは多く、普段接することのない中小企業の仕事や想いを、学生が知る場をつくる必要だと思いました。



COC+キャリアフェア

「小学校教員養成コースキャリアデザイン～小学校教員と話そう～」

本学では、COC+事業の一環として「COC+キャリアフェア」と題したプログラムに本年度より取組んでいます。本プログラムでは、京都府南部地域を中心とした企業や事業者等と学生の出会いの場を設け、就職時の地元定着に向けた良好な関係性を構築するだけでなく、地元企業や事業所についての理解を深め、就業観を養うことを目的としています。今年度は、2017年9月16日(土)に「【PSW課程】医療・福祉分野のキャリアデザイン」、2017年12月2日(土)に「キャリアデザイン～小学校教員と話そう～」の2回実施しました。



パネルディスカッション



グループディスカッション



先輩教諭による「授業」プレゼンテーション

「小学校教員養成コース キャリアデザイン～小学校教員と話そう～」では、宇治市や京都市伏見区、木津市等の京都府における小学校現場で教員として勤務している先輩学生(教育福祉心理学科小学校教員養成コース第1期生)5名を招き、教員になるまでに取組んだことや現在の仕事のやりがい等、体験談を交えて学生と和気藟々と意見交換がなされました。

当日の、前半の部では、先輩学生から学生生活や現在の仕事について話題提供いただき、パネルディスカッション、そして「先輩学生の勤務小学校の授業」のプレゼンテーションと続き、後半の部においては、先輩学生・学生(1～4年生)・高校生の混合4グループにわかれ、教師になるための質問や大学生生活の過ごし方、就業感などについて、質疑応答やグループディスカッションが行われました。

参加学生学生の声

【4年次生より】

- 今日採用1年目の現場で働いている先輩の先生方のお話を聞くことができよかったです。
- 来年4月から教員になるため、年の近い先輩から頂いた助言はすぐ現実的に感じ、不安や楽しみなことなど様々なことを聞くことができました。
- 先生という仕事はやりがいがあると改めて感じることができました。また「学び続ける」ということも大切に頑張っていきたいです。
- 先輩が素敵な表情をしていたので、私も来年あんな表情で子どもと関わりたいと思いました。

【3年次生より】

- 1年目の先生方ということで、自分たちが教員になった時の想像をしながら聞くことができました。忙しい中でどのように効率よく仕事を進めていくのかなど、自分の中で気になっていた部分を知ることができてよかったと思います。教員になりたい、なるという意欲がより高まった1日でした。
- 質疑応答を通して、現場のことについてより詳しく学ぶことができました。
- 自分がこれからのように進むべきか、改めて考えることができました。

【2年次生より】

- 今の自分に必要なもの、していなければならないことなどアドバイスを頂き、今後の道標になりました。
- 何をしたら教員採用試験に受かりますか?という、抽象的な質問にもやさしく答えてもらいました。
- 今日は生の声を聞いて本当によかったです。短い時間でしたが、これからの将来に絶対に役に立つお話でした。色々な話を聞きたいのでこういった機会を増やしてほしいです。
- 教員採用試験の勉強を今からしていこうと思いました。

【1年次生より】

- せっかくなら行ってみよう、軽い気持ちで参加しましたが、本当に参加してよかったです。
- 先輩の話で聞くことで、親近感もわいて不安に思っていたことが解消できました。
- 今まで以上に教員になりたいという気持ちが強くなりました。先輩のような先生になりたいです。
- 今日は参加する前から楽しみにしていました。疑問に思っていたことを質問でき、その答えを聞き学ぶことができました。
- 今からできることはたくさんあるので、自分で見つけて自分なりに努力していきたいです。

「KBUプレゼント・セミナー」登壇者からの声

第1回、2回プレゼントセミナー参加
株式会社西山ケミックス
代表取締役 森豊氏



「働くこととは?」という、人生における大きなテーマでお話させて頂くことで、改めて経営者としての自分の仕事を見直す良い機会となりました。我々の事業や「かばきち」についても事前によく調べておいてくださり、「こんな商品作ってみたい?」と学生ならではの色々なアイデア溢れるプレゼンをしていただけことも、サプライズ感満載で楽しかったです。ありがとうございました!

第2回プレゼントセミナー参加
株式会社神村製作所
代表取締役社長 神村圭氏



環境の変化が激しい中、会社の将来をどう描くかを考えた時、「人」がいかに大切かを感じます。しかし、人を集めるにあたっての課題は多く、まず製造業の認知度の低さを痛感し、こちら側の伝える能力の不足と機会不足を反省します。その中での声掛けは本当に有難かったです。ご期待に添えたかは甚だ心配ですが、会終了時の窓口担当の学生さんの本当にホッとした顔、それがとても印象に残りました。

第2回プレゼントセミナー参加
HILLTOP株式会社
副社長 山本昌作氏



学生のみさんの前には、無数の選択肢があります。正解なんてありません。考えて欲しいのは何をしたいか、どうなりたいか。自分で考えて行動する。失敗して当たり前、次どうするかは大事ですね。結果が思った通りでなくても、100点でなくてもいい。大切なのは結果ではなく、そこからどれだけのことを学ぶかです。妥協せず、あきらめず、本気で頑張ってください。